

フタモンマダラメイガ (Persimmon bark borer)

Euzophera batangensis



被害部位から取り出した幼虫



樹皮の隙間から虫糞の噴出がみられる

発生生態

元々はカキ・クリの害虫でしたが、京都府内では、ナシでも被害が確認されています。

幼虫が樹皮下で越冬し、成虫が春～初秋にかけて年3～4回発生します。加害するのは幼虫で主幹・主枝の粗皮下に侵入して、形成層を食害します。被害部からは、黒褐色の虫糞の噴出が確認できます。

防除対策

虫糞が噴出している部位があれば、粗皮を削っていき、幼虫を捕殺します。

薬剤散布は、枝幹部に丁寧にかけることが大切です。